

報道関係者各位

平成 20 年 1 月 10 日

森ビル株式会社

森ビル株式会社 代表取締役社長 森 稔
米フォーチュン誌「アジア・ビジネスマン・オブ・ザ・イヤー」に選出

森ビル株式会社（東京都港区）の代表取締役社長 森 稔は、米フォーチュン誌の 2007 年「アジア・ビジネスマン・オブ・ザ・イヤー(Asia Businessman of the Year)」に選出されました。これは同誌の 2008 年 1 月 21 日号（1 月 14 日発売）で発表されます。

「アジア・ビジネスマン・オブ・ザ・イヤー」は、世界の政財界リーダー層が購読している米ビジネス誌フォーチュンが、毎年アジアで目覚ましい活躍をした経営者を選出し、表彰するものです。 ※過去の受賞者は次頁ご参照

■主な受賞理由（フォーチュン誌プレスリリースより抜粋、要約）

Asia's boldest developer reaches for the sky with a 101-story Shanghai tower
～アジア屈指のディベロッパーの志高く、上海の 101 階建て高層ビル完成へ～

- ・ 東京における六本木ヒルズや表参道ヒルズなどの成功で有名な森氏は、都市生活の質を高める能力とヴィジョンを兼ね備える。
- ・ 1993 年、多くの外国人投資家が投資を敬遠していた中国・上海において、金融センターの建設を決断し、その後、アジア金融危機など多くの困難に直面しながらも、強い信念を持って乗り越え、今春、発展著しい上海における国際金融センターの核として、「上海環球金融中心」プロジェクトが竣工を迎える。

■森社長コメント

私がこれまで東京・上海を中心に進めてきた街づくりのコンセプトが評価されたことを、率直にうれしく思います。

土地の高度利用を図り、建物を高層化すると共に地下も有効活用し、地上を人と自然に解放する“ヴァーティカル・ガーデンシティ”構想が、文化的にも時間的にも豊かで、地球環境にも優しく、ひいては経済発展の鍵となると一貫して主張してまいりましたが、それが新しい知識情報社会にふさわしいと国際的にも受け入れられつつあるように思います。

この受賞を機に、アジアを代表する東京と上海が連携し、アジア経済圏の発展に寄与できればこれ以上の喜びはありません。

<本件に関するお問い合わせ先>

森ビル株式会社 広報室 磯井・野村

TEL:03-6406-6606 FAX:03-6406-9306 E-mail:koho@mori.co.jp

■森 稔（もり みのる）プロフィール

生年月日： 昭和9(1934)年8月24日

学歴： 昭和34年3月東京大学 教育学部卒業



職歴：

昭和34年6月 森ビル株式会社設立と同時に取締役 就任

昭和39年4月 同上 常務取締役 就任

昭和44年9月 同上 専務取締役 就任

平成5年1月 同上 代表取締役社長 就任

団体役員：

平成5年2月～ (社)不動産協会 理事

平成5年5月～ (社)東京ビルディング協会 理事

平成5年6月～ (社)日本ビルディング協会連合会 代議員

平成7年6月～ (財)世界自然保護基金ジャパン 評議員

平成10年8月～ 経済戦略会議委員 (平成12年7月まで)

平成11年9月～ 東京の問題を考える懇談会 委員

平成12年5月～ (社)日本経済団体連合会 理事

平成12年11月～ 東京商工会議所 議員

平成13年5月～ 総合規制改革会議 委員 (平成16年3月まで)

平成13年6月～ 国土交通省社会資本整備審議会 臨時委員

その他：

平成6年6月 スウェーデン王国 北極星勲章受章

平成15年2月 名誉大英勲章 CBE を受章

平成17年9月 首都大学東京大学院都市科学研究科 客員教授就任

(ご参考)「アジア・ビジネスマン・オブ・ザ・イヤー」過去の受賞者

2006年 Sunil Mittal氏 (Bharti、インド)

2005年 御手洗富士夫氏 (キヤノン)

2004年 張富士夫氏 (トヨタ自動車)

2003年 Li Dongsheng氏 (TCL、中国)

2002年 Nandan Nilekani氏、Narayana Murthy氏 (Infosys、インド)

※他、日本企業では、1997年にソニーの出井伸之氏、2000年にNTTドコモの立川敬二氏、2001年に日産自動車のカルロス・ゴーン氏が受賞されています。